< 言語聴覚学科 > 入学試験問題

英 語 ・ 国 語

試 験 時 間 90分

(注意)

- 1 試験官の指示があるまで，問題用紙及び解答用紙に触れないでください。
- 2 英語の問題は1頁～9頁，国語の問題は11頁～29頁に印刷されています。
- 3 解答用紙に氏名，受験番号及び受験科目名を記入してください。
- 4 解答方法は次のとおりです。
例 [1] 埼玉県の県庁所在地として正しいものを1つ選び，記号で答えなさい。

1

①前橋市 ②甲府市 ③さいたま市 ④横浜市 ⑤千葉市
この[1]の正答は「③さいたま市」ですから，解答用紙の解答番号1の横に並んでいるマーク欄の中の「③」を，鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶしてください。
- 5 机の上に鉛筆，シャープペンシル，消しゴム，時計（辞書・計算・通信機能のついていないものに限る），受験票以外は置かないでください。
- 6 受験票は番号札の手前に置いてください。
- 7 常時マスクを着用してください。ただし，本人確認の際に，試験官の指示によりマスクを外していただくことがあります。
- 8 ハンカチ，ティッシュペーパーを使用する者は，静かに挙手をして，試験官の指示に従ってください。
- 9 試験中に気分が悪くなったり，トイレへ行きたくなった者は，静かに挙手をして，試験官の指示に従ってください。
- 10 試験問題に関する質問は一切受け付けません。
- 11 途中で退出する者は，解答用紙を机の上に置き，静かに挙手をして，試験官の指示に従って退出してください。ただし，試験開始後30分間及び試験終了前10分間の退出は認められません。
- 12 試験終了後，試験問題は持ち帰って結構です。

第1問 英文中の空欄 ~ を埋める語句として最も適するものを、それぞれ
①~⑤より1つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) all the students in this city, Mike runs the fastest.

- ① For ② In ③ At ④ Of ⑤ With

(2) I an odd building over there.

- ① am seeing ② am looking ③ see
④ look ⑤ see at

(3) He believes the politician I think cannot be trusted.

- ① who ② whom ③ which ④ what ⑤ how

(4) Either I or my wife going to attend the party.

- ① am ② is ③ are ④ be ⑤ were

(5) If she the express train, she would be home now.

- ① takes ② took ③ has taken
④ would take ⑤ had taken

(6) I am going for the singing competition.

- ① to ② on ③ in ④ at ⑤ by

第2問 次の英文を読んで、以下のA・Bの問いに答えなさい。
(本文中の*印の語は、(注)を参照すること。)

7 ~ 12

この文章は著作権上の都合により公開できません。

“Japan praises ‘pinpoint’ moon landing by its SLIM probe”
Reuters, January 25, 2024)

(注) spacecraft : 宇宙船 probe : 探査機 revitalise : 活性化する
setback : 停滞 topple : 倒れる rover : 探査車
deploy : 展開する tumble : 転倒 power outage : 電力消失
multi-band spectral camera : マルチバンド分光カメラ
(赤外線を含む光の波長帯域を細かく分割して観測・撮影できるカメラ)

A 英文中の空欄 ~ に当てはまる語句として, 最も適切なものはどれか.
①~⑤から1つ選び, 記号で答えなさい.

(1)

- ① wrong
- ② acute
- ③ valid
- ④ false
- ⑤ precise

(2)

- ① but for
- ② aside from
- ③ except for
- ④ rather than
- ⑤ in spite of

(3)

- ① presence
- ② effect
- ③ absence
- ④ lack
- ⑤ influence

(4)

- ① used
- ② sure
- ③ about
- ④ unable
- ⑤ willing

B 本文で抜けている以下の英文が入る場所として、最も適切なものはどれか。①～④から1つ選び、記号で答えなさい。

“This will inspire more and more people, desirably Japanese missions, to try to land on unexplored places on the moon.”

- ①
- ②
- ③
- ④

C 次の内、英文の内容と合致しないものを、①～⑤から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① SLIM 以前は、日本は宇宙機を月面に着陸させたことはなかった。
- ② 日本は、宇宙開発分野においても、アメリカとの協力を進めている。
- ③ エンジントラブルにより、SLIM の着陸地点は予定地点からずれた。
- ④ エンジンが故障するより前に、撮影用の車が SLIM から展開された。
- ⑤ SLIM は、極寒の月の夜を越えられるようには設計されていなかった。

(次のページに続きます)

第3問 次の英文を読んで、以下のA・Bの問いに答えなさい。
(本文中の*印の語(句)は、(注)を参照すること。)

13 ~ 20

この文章は著作権上の都合により公開できません。

（“What is willpower?” by Beverly A. Jackson）

（注）prefrontal cortex：前頭前皮質 ego depletion：自我消耗
mindset：思考傾向 autopilot：自動操縦 distraction：気が散るもの

A 本文下線部(1)～(5)の文脈上の意味として、最も適切なものはどれか。それぞれ①～④より1つずつ選び、記号で答えなさい。ただし文中の動詞は原形にしている。

(1) meet

- ① to see and talk to someone
- ② to experience a problem
- ③ to come together in the same place
- ④ to achieve something

(2) systems

- ① sets of connected principles
- ② something that is being built
- ③ sets of organs in human body
- ④ methods of measuring things

(3) debunk

- ① to tell that something is very important
- ② to show that an idea is false
- ③ to remove what is covering something
- ④ to express a different opinion

(4) in place

- ① in the correct position
- ② without making any progress
- ③ not moving forward or backward
- ④ existing and ready to be used

(5) momentum

- ① the force that keeps an object moving
- ② a very short period of time
- ③ the ability to keep developing
- ④ a chance to do something

B 次の(1)～(3)の各問いに答えなさい。

(1) 次の I, II の英文に関して、本文の内容と照らして正しいものには○、間違っているものには×を付した場合の組み合わせとして適当なものを、①～④から1つ選び、記号で答えなさい。

I The author doesn't have willpower at all.

II Some people may easily achieve their goals, while others cannot.

- ① I ○ II ○
- ② I ○ II ×
- ③ I × II ○
- ④ I × II ×

- (2) 次の I, II の英文に関して, 本文の内容と照らして正しいものには○, 間違っているものには×を付した場合の組み合わせとして適当なものを, ①~④から1つ選び, 記号で答えなさい. 19

I The prefrontal cortex has a function such as willpower.

II We have little willpower when our brain don't work properly.

- ① I ○ II ○
② I ○ II ×
③ I × II ○
④ I × II ×

- (3) 次の I, II の英文に関して, 本文の内容と照らして正しいものには○, 間違っているものには×を付した場合の組み合わせとして適当なものを, ①~④から1つ選び, 記号で答えなさい. 20

I Having the right mindset is said to be more important than willpower.

II We should manage our environments to archive our goals.

- ① I ○ II ○
② I ○ II ×
③ I × II ○
④ I × II ×

(国語の問題は次のページから始まります)

第1問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

21

32

この文章は、著作権上の都合により公開できません。

(出典：池上哲司著『傍らにあること 老いと介護の倫理学』筑摩書房)

問1 本文中へaへへへcの傍線部に該当する漢字を含む熟語として正しいものを、①～⑤よりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。 21へへ 23

へaへ 21

- ① 出だしがカンジンである
- ② 子どもをカンビョウする
- ③ カンロクのある人だ
- ④ 道路にカンモンを造る
- ⑤ 注意をカンキする

へbへ 22

- ① 上司にイライをする
- ② イリヨウ品を買う
- ③ 外国にイジユウする
- ④ イリヨクを発揮する
- ⑤ イジゲンの世界だ

へcへ 23

- ① リヨウコウな関係を築く
- ② 任期がマンリヨウする
- ③ 硬貨にリヨウガエする
- ④ 体をリヨウヨウする
- ⑤ リヨウリを習う

問2 空欄 24 に当てはまる語句として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

- ① なぜなら
- ② しかし
- ③ また
- ④ さらに
- ⑤ つまり

問3 次の文章は、問題文中のAへEのいずれかの部分に入る。該当する箇所として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 25

そして、この埋没によって、基準が絶対化されることになる。

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D
- ⑤ E

問4 傍線部(1)「この場合」とあるが、それはどういう場合か、最も適切なものを、①～

⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 26

- ① 覇負チームの勝敗に一喜一憂し、自分の応援するチームの勝利のためには相手チームの不利になることをすべて悪とみなす、熱狂的なファンの場合。
- ② 覇負チームの勝利を願いながら、覇負チームと相手チームの不利になることをすべてよしとし、双方の不利になることは一切が悪であると決めつける場合。
- ③ チームの対戦において、覇負チームの勝利を願って、相手チームの不利になることを善とし、逆に、覇負チームの不利になることを悪とする場合。
- ④ スポーツの試合で、覇負のチームの不利や相手の有利になることはすべて肯定され、覇負のチームの有利や相手の不利になることはすべて否定される場合。
- ⑤ 応援するチームが有利になることはすべて容認しつつ、相手のチームが不利になって勝利を逃すようなことはよしとしない、熱狂的なファンの場合。

問5 傍線部(2)「基準の一定性」とはどういうことか、最も適切なものを、①～⑤より

一つ選び、記号で答えなさい。 27

- ① 基準が自分たちの善悪の判断により恣意的に決定されたり、改変されたりすることを認め、公的に定められた基準を、全ての人物に等しく、恒常的に適用すること。
- ② ある一定の条件のもとで有効性を持つ基準を、自分の利害で都合よく変えることなく、敵や味方という枠組みはあっても、その条件のもとにおいて適用すること。
- ③ 自分たちは善であり、相手方は悪という善悪の区別に囚われず、自分たちの都合のよいように基準を改変せず、他者に有利となるような基準を定めて固定すること。
- ④ 善悪の判断が、人や状況により異なったり作為的に変更されたりすることはないが、一部の人に理解される偏向的な善悪の基準があり、それが不変であるということ。
- ⑤ 善悪の基準が自分たちの立場によって決定されたり、変わったりすることを容認し、自分と相手の双方にとって公平な基準を設定し、それを普遍的なものとする(1)こと。

問6 傍線部(3) 「誰が敵かの誰ではなくて、味方ではない『敵』が誰かである」とはどのようなことか、最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

28

- ① チームの対戦で鼻負チームに熱心に肩入れする場合には、初めに相手の性格に基づいて割り振りをし、自分にとって敵か味方かの単純明快な区別をして、状況に応じて人を振り分ける二分法的な仕方が重視されるということ。
- ② 自分以外の者への位置づけは、自分にとって敵となるか味方となるかだけであり、善悪の枠が固定されているだけで、悪という枠が誰に振り分けられるかは一定せず、状況次第で味方でない者が敵となるということ。
- ③ 敵か味方かという発想において重視されるのは、特定のチームを敵とみなすことで、自分の属する味方チームではないすべてのチームに対して、悪という固定された枠を割り振ることで明確な線引きをすること。
- ④ 敵か味方かという二項対立的発想においては、普遍的な善悪の判断基準に照らして悪を働いた者を敵と見なすのではなく、自分がつねに善ではないという前提に基づいて、自分の味方ではない者をすべて敵と見なすということ。
- ⑤ 二分法的な見方で敵か味方かを判断するとき、一般的な善悪の基準で、悪の枠にあてはまる者を敵と判断するだけでなく、自分にとって敵か味方かを状況によって見極めることで、味方でない者が敵になることがあるということ。

問7 傍線部(4)「憎悪と言ってよいほどの態度に見られるしつこさ、激しさ」とあるが、なぜそういう態度が生じるのか、適切でないものを、①〜⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

29

- ① 敵と味方の枠組みは、試合中という条件下でのみ適用されるはずのものだが、無意識にその条件を忘れるというより、意識して条件を無視することで基準を絶対化し、状況に埋没することで、本来なら基準が有効になる試合の外という領域においても敵・味方で区別されるから。
- ② 試合中のみ有効な敵と味方という枠組みが、本来適用してはならない領域にまで越境してきているからであるが、それは条件に合った基準を選択するための状況に対する一定の距離を保つことが難しく、状況の中に埋没することで判断基準を絶対化してしまうから。
- ③ 一般的に、基準にはそれぞれの有効範囲というものがあり、敵味方に分けて考える状況に対して一定の距離を保つ必要があるが、その状況の中に埋没してしまうことで基準が絶対化されてしまい、試合中のみ有効な善悪という枠組みが試合の外においても働くから。
- ④ 状況に対して一定の距離を保ち、場面に応じた条件を考慮するよりも、状況に埋没して自己の基準を絶対化する傾向があるため、試合における敵・味方の区別を、本来その区別が解除されるはずの試合後の領域にまで持ち込み、そこに善悪の判断基準を重ねようとするから。
- ⑤ 本来、敵・味方の区別があるのは試合中に限られるはずなのに、敵か味方かの判断基準が有効になる条件を考えて状況を相対化することは難しいために、意識的にその条件を無視して敵か味方かの基準を絶対化し、相手チームとその応援者を、試合後も敵とみなすから。

問8 傍線部(5)「勝者／敗者という対と、敵／味方という対とは、次元が異なっている」とはどういうことか、適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

30

- ① 「勝者／敗者」は、試合の勝敗に即して現れ、感情の起伏を伴うが、それは試合開始から終了あるいは前後までの限られた時間である。一方、「敵／味方」は、試合中に現れる「われわれ」にもたらす魅力的な同一性を試合後も維持しようとする味方と、それを阻む敵の区分だが、それは試合中という条件下で絶対化し全生活を覆うことすらある、という違いがある。
- ② 「勝者／敗者」は、試合の結果に左右される普遍的で絶対的な区別であるが、「敵／味方」は、自分とそのチームの一体化の幻想を真実として受け入れ、その実現に向けて全力を挙げる者が味方であり、それを阻む者が敵であるため、敵か味方かという枠組みはその都度試合を超えて全生活を覆うこともあり、その区別の基準は絶対化されないという点で前者とは異なる。
- ③ 勝者が敗者かという枠組みは、試合開始から終了までの時間あるいはその前後を含んだ時間のみ適用され、有効範囲が無限の枠組みである。これに対して、その都度の試合を超えて、「われわれ」の一体化の実現に全力を注ぐ者が味方で、それを阻むのが敵という枠組みは、全生活をも覆うことすらあり、有効範囲が有限の枠組みである、という点で違ったものである。
- ④ 勝者が敗者かは試合の結果によって生じる枠組みであり、短時間に限られる。これに対して、敵か味方かという枠組みでは、「われわれ」の一体化の実現に向けて全力を挙げるものが味方となる。本来は後者もその時間限りの枠組みであるが、敵か味方かの基準が絶対化されると、試合後、さらには生活のあらゆる場面においてもその枠組みが適用されるという点で前者とは異なる。
- ⑤ 「勝者／敗者」の枠組みでは、勝敗により同じ勝利を喜び、同じ敗戦を悲しむという同一性をもたすが、短い時間に限られる。その一方で、「敵／味方」の枠組みはその都度の試合を超えて、条件の確認を十分行ったうえで、「われわれ」の同一性を目指す者が味方で、それを妨げる者が敵という絶対化した基準が全生活に適用される、という点で異っている。

問9 空欄 に当てはまる表現として最も適切なものを、それぞれ①～⑤より一つ

選び、記号で答えなさい。

- ① 逸して
- ② 屈して
- ③ 制して
- ④ 敗して
- ⑤ 喫して

問10 傍線部(6)「基準を用いる者ではなく、基準に支配される者」とはどういうことか、

適切でないものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 敵・味方の基準が一旦絶対化されると、その基準を批判する意思や能力を欠いた者は、自らの意向に関わらず、絶対化された基準から自動的に産出される下位基準に縛られることで、敵か味方かの選択を迫られ、基準に服従しない者は全て敵という枠組みの中に入るということ。
- ② 敵か味方かという基準は、一旦絶対化すれば、自動的にさまざまな下位基準を産出するため、基準を批判することをしない者、できない者は、その基準を信奉すること、基準を活用する者ではなく、その下位基準により細部にわたるまで、自らの生を支配される者になるということ。
- ③ 敵か味方かという基準の絶対化が生じると、基準を主体的に用いることはもはやできなくなり、絶対化した基準によって自動的にさまざまな下位基準が産出され、その下位基準によって、その絶対的基準を信奉する者の生は細部にわたるまで支配されてしまうということ。
- ④ 敵か味方かという基準が絶対化すると、自動的にさまざまな下位基準を産み出し、その基準を信奉する者の生を支配するが、基準が絶対化された状況下では、批判や条件の確認は行われないため、基準を司っていたはずの者であっても、基準に服従せざるをえなくなるということ。
- ⑤ 敵・味方の基準が一旦絶対化されると、その基準に基づきさまざまな下位基準が自動的に生まれ、絶対的基準を信奉する人々の生を細部まで支配するようになるが、基準に対する批判することをしない者、できない者は、基準を使うのではなく、基準に従属する立場になるということ。

第2問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

33

45

この文章は、著作権上の都合により公開できません。

(出典：佐藤健二著『ケータイ化する日本語』大修館書店)

問1 本文中〈a〉〈c〉の傍線部に該当する漢字を含む熟語として正しいものを、①〜

⑤よりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

33 35

〈a〉 33

- ① ソクバクが激しい
② サバクは広大だ
③ バクダンを撤去する
④ バクガから醸造される

〈b〉 34

- ① ヨウスをうかがう
② ヨウジの服を選び
③ 鉄をヨウカイする
④ 水をヨウキにうつす
⑤ ヨウジン深い人だ

〈c〉 35

- ① トウメイの液体
② トウヅツに受付をする
③ 建物がトウカイした
④ 彼と意気トウゴウした
⑤ トウキの置物を買った

問2 傍線部(1)「あえて『固定電話』というようになった」とあるが、その理由として、

適切でないものを、①〜⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

36

① 端末が通信線につながれていない「移動体通信」が普及し、自由な時間で通信できるようになったため、従来の有線で回線に固定された電話機と区別する名称が必要になったから。

② 自由に移動しながらの通信を可能にする端末機器が普及したことで、有線でつながれ一定の場所に固定された従来の電話をそれらと区別する名称が必要になったから。

③ 電話線に固定されない携帯電話を自由に移動しながら使用するなかで、特定の場所と結びつけられた従来の電話機の固定的な性質を、その特性として改めて強く意識するようになったから。

④ 片方か双方の端末が通信線につながれていない「移動体通信」が普及し、使い手が自由に移動できるようになったことで、従来の電話の固定性が意識されるようになったから。

⑤ 使い手が使う場所を自由に移動できるような通信手段である「移動体通信」と区別するために、電話機が有線で固定された従来の電話を「固定電話」と呼ぶ必要性が生じたから。

問3 空欄「 I 」・「 II 」に入る語句として、最も適切なものを、①～

⑤よりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。 37 38

「 I 」

- ① 永続的
- ② 開放的
- ③ 回顧的
- ④ 干渉的
- ⑤ 規則的

「 II 」

- ① 停滞
- ② 吸収
- ③ 消失
- ④ 接続
- ⑤ 分解

問4 空欄 X に入る語句として、最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記

号で答えなさい。 39

- ① うつつを抜かした
- ② 一泡ふかせた
- ③ にらみをきかせた
- ④ 裏打ちされた
- ⑤ 身につまされた

問5 傍線部(2)「まだ検討の余地がある」とあるが、その理由として、最も適切なものを、

①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

40

- ① 電話をかける側と受ける側が異なる方向意識を持ち、外部の回線空間を共有することを前提としている記述について、筆者はかける側と受ける側の意識は同じ方向性であるとし、回線空間の共有も自明とは言えないと考えているから。
- ② 電話が個と外部を直接結びつける際、家の中で電話を使う者にとっては、「家から出て」会話の相手と外部における共有空間を持つというよりも、相手を「家に招き入れる」という意識の方が強かったと筆者は考えているから。
- ③ 筆者は、個と外部を結びつける固定電話のありようを考察する際に、家の外にいて電話がかかってくる側が「家から出る」という意識ではなく、むしろ会話の相手を「家に招き入れる」という意識にこそ着目すべきだと考えているから。
- ④ 固定電話が居間から個室に移動し、成員を外部へと直接媒介するという記述に対して、筆者は会話の相手を「家に招く」という意識ではなく、家にいるほうが「家を出て」会話の相手と共有空間を持つという意識であると考えているから。
- ⑤ 筆者は、電話での会話を支える意識について、家の中で電話を使う側は「家から出る」という意識であるが、会話の相手は「家に招き入れる」という意識のため、家から出た外部の空間としての共有はされていないと考えているから。

問6 傍線部(3)「バーチャルな訪問」とはどのようなものか、最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 41

- ① 身体を備えた存在が訪問するのではなく、身体的な情報と切り離されて、電話先の相手が、視覚的な要素を持たない電話の回線上の声のみにより語ることで、親密なリアリティを家の中にいる全ての者にもたらしめるもの。
- ② 生身の人間が現実訪問する場合と同じように、電話回線において、一切の視覚的要素を伴うことなく、回線を通した声だけで成り立つ訪問で、家にいる誰からも見えず、ただ受話器を持つ人だけに話しかけてくるもの。
- ③ 現実の身体としての存在が訪問するのではなく、視覚的要素をまったく持たずに家にいる誰にも姿が見えないまま、回線を介しての声だけによって、受話器を持つ人だけに直接話しかけてくる形で家の中に入りこんでくるもの。
- ④ 現実存在する体が家を訪れるのではなく、家の誰にも見えないまま、受話器を持つ者だけに、視覚がまったく関わらない回線を通じて、声のみで語りかける形で家の中に入り、バーチャルリアリティを感じさせるもの。
- ⑤ 家にいる他の誰にも関わることなく、受話器を持つ人だけに話しかけるため、実際に人が訪問しているにも関わらず、電話の回線上のように視覚的要素を持たず、回線を通した声のようにリアリティのない訪問を成立させるもの。

問7 空欄 42 に当てはまる語句として最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

- ① むしろ
- ② すなわち
- ③ ただ
- ④ さて
- ⑤ しかし

問8 本文中の四角枠内のAとEを並べ替えて、最も適切な順序になるものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 43

- ① B↓A↓C↓E↓D
- ② C↓B↓E↓A↓D
- ③ C↓A↓D↓B↓E
- ④ D↓B↓E↓A↓C
- ⑤ D↓C↓A↓B↓E

問9 傍線部(4)「整合性から離れていくことになった」とはどのようなことか、最も適切なものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。 44

- ① 固定電話が外部との境界であった玄関からより私的な空間である居間へ、さらに個室へ移動したことと呼応して、自他の勝手気ままが許される存在となり、身なり身ぶりと共に相手の外見で配慮する存在となったということ。
- ② 電話が移動可能になったのに先立ち、家庭の固定電話の置き場所が玄関などから各人の個室へと移動したことは、相手の目を気にしながら、実際に対面する際に伴う礼儀や配慮ぬきに、声だけの存在となったということ。
- ③ 家庭の固定電話は外部との境界であった玄関から居間へ、そして各自の私的な空間へと広がるにつれて、電話の相手は視覚情報で判別できる存在のため、電話の先で話すときの礼儀や態度を気にしない存在となったということ。
- ④ 固定電話が個室から玄関、そして居間へと移動するにつれて、電話の相手は現実の視覚的接触を伴わない、自由に振る舞える存在となり、身なりや身ぶりから離れて、礼儀や態度などの配慮をせずに話せるようになったということ。
- ⑤ 携帯電話が普及するより前、家庭の固定電話は、玄関から居間へ移動し、各人の個室へと移行するなかで、声だけで目に見えない相手と、実際に相手と対面する際の礼儀や態度を気にせず話すことができるようになったということ。

問10

本文の内容に合致しないものを、①～⑤より一つ選び、記号で答えなさい。

45

- ① 「移動体通信」は、通信行政の現場で工夫された新しい専門用語であり、「移動体通信」が自動車電話のサービス開始とともに普及し、一九九〇年代に通信事業者が本格的に事業を展開し始めたことで一般的になった。
- ② 携帯電話の登場により、従来の固定電話が有線で一定の場所に固定されていたことが「わずらわしい形容詞」として意識されるようになったが、実際には固定電話も家の中で移動することがあった。
- ③ 電話の普及の初期には、玄関の下駄箱の上などの外部との境界に置かれていた電話が、利用の頻繁化とともに家の中心部に移動し、最終的には親子電話やコードレス電話の普及により家族の個々の部屋にまで広がった。
- ④ 電話の居間への移動と個室への分散が、家庭内の人々の身体的な存在の変化とその個別化を象徴していて、電話の「利便性」のための移動は、実際には他者を具体化し、存在意義を発見する受容形態である。
- ⑤ 電話を使った会話では、身ぶりや身なりを気にする必要がなく、事前の準備や礼儀作法も不要であり、その結果、電話空間は視覚的な要素に左右されず、ローカルな現実は見えない場となっていた。

令和7年度 言語聴覚学科(後期) 英語・国語 正答

英語 正答表

問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点
第1問				第2問				第3問			
(1)	1	④	5	A				A			
(2)	2	③	5	(1)	7	⑤	6	(1)	13	④	4
(3)	3	①	5	(2)	8	④	6	(2)	14	①	4
(4)	4	②	5	(3)	9	③	6	(3)	15	②	4
(5)	5	⑤	5	(4)	10	④	6	(4)	16	④	4
(6)	6	③	5	B				(5)	17	③	4
小計			30		11	③	4	B			
				C				(1)	18	③	6
					12	④	4	(2)	19	②	6
				小計			32	(3)	20	①	6
								小計			38

国語 正答表

問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点
第1問				第2問			
問1	21	③	4	問1	33	②	4
	22	①	4		34	④	4
	23	②	4		35	④	4
問2	24	②	4	問2	36	①	4
問3	25	④	4	問3	37	③	4
問4	26	③	4		38	⑤	4
問5	27	②	4	問4	39	④	4
問6	28	②	4	問5	40	②	4
問7	29	①	4	問6	41	③	4
問8	30	④	4	問7	42	②	4
問9	31	⑤	4	問8	43	④	4
問10	32	①	4	問9	44	⑤	4
小計			48	問10	45	④	4
				小計			52